vol.245

市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井功文

「理科大」薬学部の校舎建設に着手します

昨年暮れ，市議会で，平成 30 年 4 月の「理科大」薬学部開設に向けた校舎建設を開始するための補正予算が議決されました。早速，今月から測量・地質調査と設計に着手し，来年度から工事を行い，開設までに校舎建設と研究機器類の整備を全て終える予定です。

「理科大」公立化の総事業費は約 110 億円。その事業規模は，本市にとってこれまで経験したことのない最大の事業となります。

補正予算の委員会審査は，市議会の一般会計予算決算常任委員会と山口東京理科大学公立化調査検討特別委員会が合同で当たりましたが，この審査で薬学部校舎の建設場所が事実上決まるとあって，審査も白熱し様々な指摘がありました。

委員の多くからは，この度の「理科大」公立化および薬学部設置は，地方創生の観点から，まちづくりの視点で検討すべきであるということが強調されました。若者の定住促進と地域の活性化こそ重要であり，大学公立化および薬学部設置は，その手段として位置づけるべきだというのです。併せて，もっと広角的な視点から検討するべきで，当面の財政シミュレーションやスケジュールのみに捉われてはだめだ，将来にわたる経済効果等をもっと重視して審査すべきだとも。

そして，このような重要案件にあっては，執行部と議会が文字通り車の両輪として取り組むべきであるのに，議会への十分な情報提供や事前相談に欠けていたのではないか，と執行部の対応に猛省を求める指摘もありました。

また，重要案件であるが故に，執行部の組織体制も，一部の少数職員のみが携わるのではなく，重要プロジェクトとして全庁的に取り組む体制を早急に整える必要があるとの指摘もありました。

また，審査の過程において，現在の学校用地が開校当時に小野田市と宇部市からどのような経緯で提供されたか，あるいは，校舎建設は防災の視点も入れて検討しなければならないなど，新たな指摘もあり，大変厳しくも有益な委員会審査でした。

今後は，これらを真摯に受け止め，今後の市政全般にわたる事務遂行のあり方について，再考するつもりです。